

Sustainability

新菱冷熱のサステナビリティ推進活動

22 サステナビリティの取り組み

27 重要課題解決への取り組み

27 重要課題1 脱炭素社会への貢献



- 27 気候変動への適応
- 28 TCFD提言への賛同
- 31 イノベーションハブでの取り組み
- 32 新菱冷熱の脱炭素技術
- 33 環境マネジメントシステム(EMS)
- 34 資源循環型社会への貢献／生物多様性の保全



35 重要課題2 レジリエンスな社会への貢献



- 35 大阪西梅田熱供給プラント
- 37 East Coast Integrated Depot
- 39 TAKANAWA GATEWAY CITY THE LINKPILLAR 1 SOUTH
- 40 味の素ファインテクノ群馬工場
- 41 京都市役所北庁舎
- 42 HAPPINESS ARENA



43 重要課題3 安全で高効率な業務プロセスの実現



- 43 品質マネジメントシステム(QMS)
- 45 施工現場の生産性向上の取り組み
- 47 安全衛生への取り組み
- 49 サプライチェーンとの協力・連携



51 重要課題4 さわやかで創造性に富んだ環境づくり



- 51 人材マネジメント方針
- 52 いきいきと働くための環境づくり
- 55 創造性に富んだ人材の育成



57 重要課題解決を支える経営基盤

- 57 人権の尊重
- 59 コーポレート・ガバナンス
- 61 コンプライアンス

63 グループ会社のサステナビリティ推進活動

66 社会とのかかわり

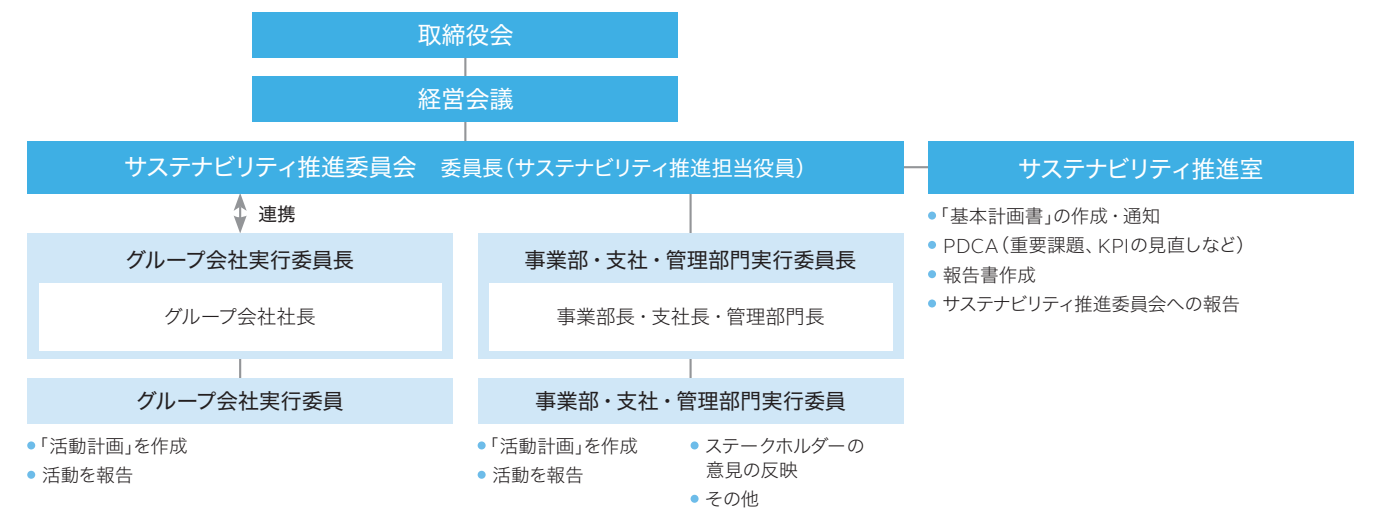
サステナビリティの取り組み

サステナビリティの社会課題は、人権尊重やサプライチェーン、カーボンニュートラルなど多岐にわたり、その動向は急速に変化しています。これらの課題に密接に関連づけた取り組みを充実させ、持続可能な成長に向けて対応していきます。

サステナビリティ推進体制

新菱冷熱は、2014年にCSR推進室を設けてCSR活動を開始しました。2019年からはサステナビリティ推進に取り組みを拡大し、経営に沿った戦略的な活動へと移行しました。2024年からは、多様な社会課題へ迅速に対応するため、社長直轄部門「サステナビリティ推進室」として独立しました。環境、品質、安全、調達、人事、総務などサステナビリティ関連

部門との連携強化を図り、活動の実効性を高めて行きます。
サステナビリティに関する重要事項は、サステナビリティ推進担当役員を委員長とするサステナビリティ推進委員会から、代表取締役が出席する経営会議へ報告、経営会議において審議されます。また、必要に応じて取締役会への報告を行います。

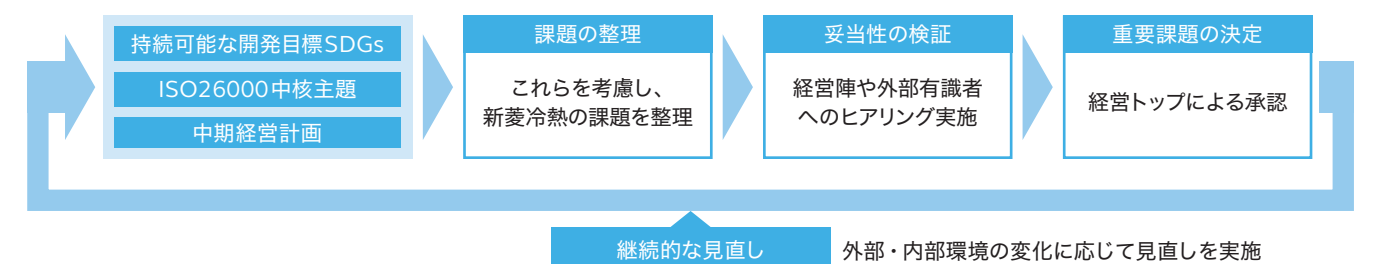


重要課題(マテリアリティ)

2020年、新菱冷熱は4つの重要課題を決定しました。特に力を入れていくSDGsの目標は、「7」エネルギーをみんなにそしてクリーンに、「8」働きがいも経済成長も、「9」産業と技術革新の基盤をつくろう、「11」住み続けられるまちづくりを、「13」気候変動に具体的な対策を、「16」平和と公正をすべての人にの6つです。重要課題には、新菱冷熱が社会に対して大きな役割を果たすことができる「脱炭素社会の実現」や「レジリエンスな社会」にかかわることを定めたほか、より良い施工現場の実現や新菱冷熱らしい「さわやか」な環境づくりを目指すことを含めました。また、重要課題それぞれの実効性を高めるためのKPI(主要な取り組み目標)を策定し、サステナビリティの取り組みを着実に進めています。

決定プロセス

2017年より、社会の持続的発展のために新菱冷熱が事業を通じて取り組む社会課題について検討を進め、中期経営計画を軸に、ISO26000および持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を取り入れ、課題の整理を進めました。さらには、経営陣や外部有識者の意見を参考に妥当性を検証し、代表取締役社長による承認を経て2020年に重要課題を決定しました。外部・内部環境に応じた中期的な視点での妥当性の確認を毎年行い、必要に応じて見直しを行います。



4つの重要課題



重要課題1
脱炭素社会への貢献



地球温暖化の影響が大きくなる中、パリ協定の目標達成、脱炭素社会の実現は急務となっています。
新菱冷熱は、環境エンジニアリング企業として、設計・施工・維持管理・研究開発などの事業活動において、温室効果ガス排出量の削減などに努め、脱炭素社会の実現に貢献していきます。



重要課題2
レジリエンスな社会への貢献



自然災害のリスクが高まる中、安心・安全な社会生活や企業活動を継続するための強いインフラの構築が求められています。
新菱冷熱は、高効率・高品質な設備の提供、適切なメンテナンスとリニューアル提案で、安全に使い続けられる社会インフラの構築に貢献していきます。



重要課題3
安全で高効率な業務プロセスの実現



国内建設業の労働力不足を踏まえれば、業務効率化と生産性向上は重要な課題です。また国際的にも労働者の人権や労働管理が課題となっています。
新菱冷熱は、安全で高効率な業務プロセスの確立により、安心して働くことができる職場環境と効率的な施工現場の運営の実現を目指します。



重要課題4
さわやかで創造性に富んだ環境づくり



国内建設業では長時間労働の是正や柔軟に働くことができる環境づくりが大きな課題になっています。
新菱冷熱は、多様な人材がいきいきと仕事ができ、それぞれの能力を最大限発揮できる環境をつくることで、生産性の高い、創造性に富んださわやかな企業を目指します。

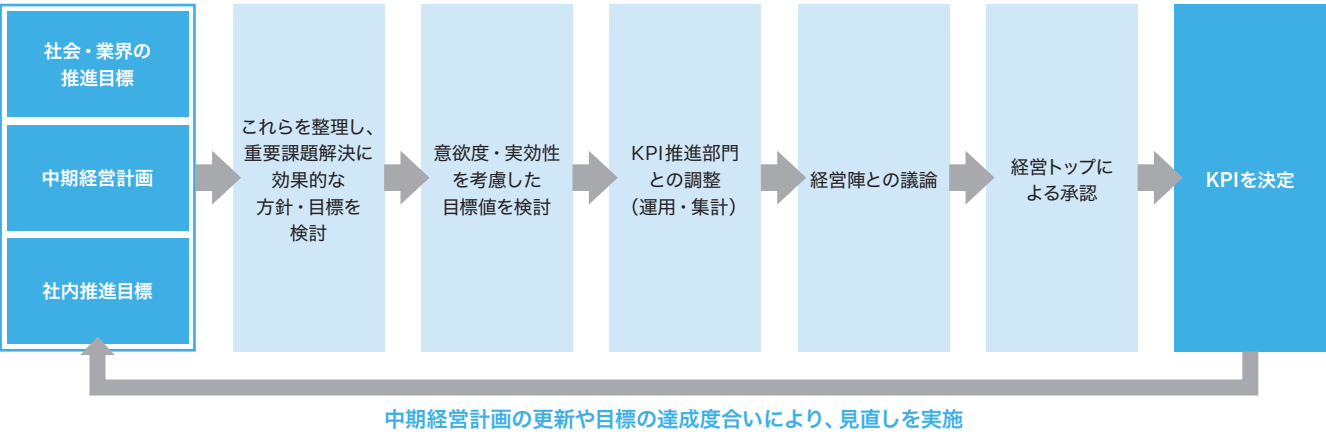
サステナビリティ関連活動

2025年度は、脱炭素の取り組みと働く環境の整備を中心に活動を行いました。今後は、取り組みの継続と課題の解決に向けた検討を進めます。

テーマ	取り組み・成果	今後の課題
人権	P57-58 <ul style="list-style-type: none">人権に関する研修を定期的に実施（SDGsに関するeラーニング、コンプライアンスNews）	<ul style="list-style-type: none">人権リスク予防の取り組み
脱炭素、環境	P27-34 <ul style="list-style-type: none">スコープ3削減目標の新規設定中期経営計画のKGI（経営目標達成指標）に、スコープ1、2、3の削減目標を設定省エネ法「優良事業者Sクラス」を6年連続取得TCFD提言にもとづく情報開示を継続実施	<ul style="list-style-type: none">スコープ3削減に向けた取り組みの社内浸透と社員の意識醸成生物多様性保全活動の方針策定
働く環境	P51-56 <ul style="list-style-type: none">人を取り巻く環境を整備する活動「We Up!」をスタート企業の活力アップに向けて、2025年10月より新人事制度を導入健康経営優良法人2025（大規模法人部門）認定会社見学会を「神戸須磨シーワールド」で開催。社員家族159名が参加	<ul style="list-style-type: none">人的資本の強化
サプライチェーン	P49-50 <ul style="list-style-type: none">「調達ガイドライン」の改訂について、協力会社1200社へ周知と協力の実施パートナーシップ構築宣言を更新	<ul style="list-style-type: none">調達ガイドラインの取り組み状況に関するアンケートや対話の実施
社会との連携	P66 <ul style="list-style-type: none">災害支援、人道支援団体、音楽・芸術団体への継続的な支援	<ul style="list-style-type: none">環境教育などの開催
社内風土醸成	P58 <ul style="list-style-type: none">全従業員を対象としたSDGsに関するeラーニングを2020年から5年間継続して実施	<ul style="list-style-type: none">社員参加型サステナビリティ活動のプログラム検討

KPI決定・推進プロセス

中期経営計画や社内の各種目標と併せ、社会・業界全体の目標を踏まえたKPIを策定し推進しています。2025年10月には、中期経営計画「第16次3ヵ年計画」のスタートに合わせて、KPIの見直しを行いました。



2026年度から推進するKPIの主な改訂点

重要課題	改訂前のKPI	見直しの方向性
重要課題1 脱炭素社会への貢献	● 温室効果ガス排出量の削減 スコープ1、2 2030年50%削減、 2050年実質ゼロ(2009年比)	● スコープ1、2削減は順調に推移したため、基準年度を国際基準に沿って2009年から2017年に見直し ● スコープ3削減目標の設定 2030年32.5%削減、2050年実質ゼロ(2017年比)
重要課題3 安全で高効率な業務プロセスの実現	● 施工現場の生産性向上の主な取り組みをSHINRYO Reportに掲載	● 施工現場の合理化・デジタル化推進のための目標設定（生産性向上率、オフサイト生産導入現場数、BIM導入率）
重要課題4 さわやかで創造性に富んだ環境づくり	● 新菱冷熱のありたい姿を実現する働き方改革の推進	● 人を取り巻く環境を整備する活動「We Up!」による人的基盤強化のための目標設定（男性育休取得率、健康推進施策）
重要課題解決を支える経営基盤	—	● 人権リスクを把握・是正するための目標設定

参加・賛同するイニシアティブや外部評価

国連グローバル・コンパクト(2014年9月署名)

新菱冷熱のサステナビリティ推進活動は、国連グローバル・コンパクトと持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を参考にしています。国連グローバル・コンパクトにおける4分野(人権、労働、環境、腐敗防止)10原則、SDGsにおける17の目標の考え方を導入したサステナビリティ推進マネジメントと事業活動を進めています。これらは、海外での技術提供にも力を注ぐ新菱冷熱が、国際社会から信頼される企業に成長したいという意志の表明です。

参加・賛同するイニシアティブ

- TCFD気候関連財務情報開示タスクフォース(2023年11月)
- 気候変動イニシアティブ(2021年2月)
- 経団連「チャレンジ・ゼロ」宣言(2020年6月)
- 経団連生物多様性宣言イニシアチブ(2020年6月)
- パートナーシップ構築宣言(2025年9月更新)

外部から受けた主な評価

- 健康経営優良法人2025(大規模法人部門)
- 日経SDGs経営調査2025(星3)
- 日経スマートワーク経営調査2025(星3)

SDGs重要課題の進捗と新たな取り組み

新菱冷熱は、SDGs重要課題解決のため、KPIを策定し着実に行動してきました。
2026年度からは、新たな行動目標・KPIに改訂し、持続可能な社会の実現に向けて引き続き挑戦します。

2025年度までの実績・評価

重要課題 (マテリアリティ)	活動方針	行動計画	KPI (主要な取り組み目標)	2025年度 活動成果	掲載 ページ	達成 状況
<div>重要課題1</div> <div>脱炭素社会への 貢献</div> <div></div>	事業活動における 温室効果ガス排出量の削減	<ul style="list-style-type: none">● スコープ1 (直接排出) の削減● スコープ2 (エネルギー 起源の間接排出) の削減	スコープ1、2の削減率 <ul style="list-style-type: none">● 温室効果ガス削減基準年度： 2009年● 温室効果ガス排出量<ul style="list-style-type: none">・ 2030年：50%削減・ 2050年：実質0	52% ※ 2024年度実績	30	○
		スコープ3カテゴリ11 (販売した製品の使用)を 対象とする温室効果ガス 排出量削減に向けた 設計提案の推進	設備運用時の温室効果ガス 排出量削減に向けた 設計提案の実施率：100%	100%	30	○
	先進的な省エネルギー技術 への取り組み	省エネルギー関連の 外部表彰への応募などを 通じて省エネルギー技術を 広く社会に発表する	—	受賞技術を SHINRYO Report に掲載	44	○
<div>重要課題2</div> <div>レジリエンスな 社会への貢献</div> <div></div>	レジリエンスな社会インフラ の構築に貢献	<ul style="list-style-type: none">● レジリエンス・高効率・ 高品質な設備の提供● 社内表彰制度 (社長賞) での 技術評価	—	主だった取り組みや 受賞技術を SHINRYO Report に掲載	35-42	○
<div>重要課題3</div> <div>安全で高効率な 業務プロセスの 実現</div> <div></div>	施工現場の生産性向上	施工現場の合理化・ デジタル化の推進	—	主だった取り組みを SHINRYO Report に掲載	15-16、 45-46	○
	高品質な設備システムの 提供	品質マニュアルにもとづく 施工による品質向上と 技術トラブルの防止	施工サイクル実施率：100%	100%	43	○
	安心して働くことができる 施工現場の運営	リスクアセスメントを取り入れた 作業手順の遵守による ヒューマンエラーの防止	度数率：0.40以下	0.21 ※ 2024年度実績	47	○
	技能者の公正な評価と 施工品質の向上	建設キャリアアップシステムの 普及促進	安全衛生協議会会員の 建設キャリアアップ システム登録率：80%以上	94%	50	○
<div>重要課題4</div> <div>さわやかで 創造性に富んだ 環境づくり</div> <div></div>	新菱冷熱の「働き方の ありたい姿」の実現 <ul style="list-style-type: none">● さわやかで風通しの良い、 働きやすい職場● 誇り・やりがい・達成感・ 成長● 充実し、バランスの取れた 仕事と生活● 限られた時間で最大限の 成果を出す働き方	<ul style="list-style-type: none">● 中長期計画の着実な実行と 3ヵ年ビジョンの達成● その一つとして、 重要課題4では、働き方 改革の推進を上げる<ul style="list-style-type: none">● 働き方さわやかProject● チャレンジ45	従業員満足度：4.0以上 ※ 当社調査による指標 (0～5で評価)	3.7 ※ 2024年度実績	52	×
			年次有給休暇取得率： 前年度比増	91.2% (前年度比 4.5ポイント減) ※ 2024年度実績	52	×
	コンプライアンスの徹底	コンプライアンス研修の 継続的な実施	コンプライアンス研修受講率： 100%	100%	62	○

2026年度以降の行動計画・KPI

重要課題 (マテリアリティ)	活動方針	行動計画	KPI (主要な取り組み目標)	中期経営計画 (第16次3ヵ年計画)
<div>重要課題1</div> <div>脱炭素社会への 貢献</div> <div></div>	事業活動における 温室効果ガス排出量の 削減	事業所における温室効果ガスの 排出抑制の推進	スコープ1、2の削減率 <ul style="list-style-type: none">● 温室効果ガス削減基準年度：2017年● 温室効果ガス排出量<ul style="list-style-type: none">・ 2030年：50%削減・ 2050年：実質0	戦略2 成長戦略 2-1 事業成長力の強化
		<ul style="list-style-type: none">● ライフサイクルCO₂に配慮した技術の導入 (太陽光発電やバイオマス発電、蓄電池、 水素製造、CO₂吸収技術など)● イノベーションハブに導入した 脱炭素技術の効果検証と運用改善の実施	「Innovation Hub-CN2030」 2030年までに研究開発活動からの 温室効果ガス排出量ゼロ(スコープ1,2) <ul style="list-style-type: none">● 温室効果ガス削減基準年度：2017年● 温室効果ガス排出量：2030年 実質0	
		カーボンニュートラル実現に向け、 社会への技術提供を積極的に推進する <ul style="list-style-type: none">● 設備運用時の温室効果ガス排出量の 削減につながるお客様への提案活動● 脱炭素技術の開発● 当社の脱炭素技術に関する情報を発信し、 社会認知度を向上	スコープ3の削減率 <ul style="list-style-type: none">● 温室効果ガス削減基準年度：2017年● 温室効果ガス排出量<ul style="list-style-type: none">・ 2030年：32.5%削減・ 2050年：実質0	
	環境負荷の低減	産業廃棄物の再資源化の推進	再資源化率90%以上	
		事業所における水使用量の計測体制の 整備と適正管理の実施	主要事業所における水使用量 (m ³ /年)	
<div>重要課題2</div> <div>レジリエンスな 社会への貢献</div> <div></div>	レジリエンスな 社会インフラの 構築に貢献	<ul style="list-style-type: none">● レジリエンス・高効率・高品質な 設備の提供● 社内表彰制度 (社長賞) での技術評価	高い技術力と創意工夫により 社会インフラ構築に貢献した プロジェクトを表彰する	戦略1 収益力の向上 1-2 戦略受注の強化 戦略2 成長戦略 2-2 グローバル成長に 向けた戦略
<div>重要課題3</div> <div>安全で高効率な 業務プロセスの 実現</div> <div></div>	施工現場の 生産性向上	施工現場の合理化・デジタル化の推進	施工現場の生産性向上率17% (2025年度比)	戦略1 収益力の向上 1-1 生産プロセス改革
			オフサイト生産導入現場数：50%以上	戦略3 経営基盤の強化 3-1 DX推進と デジタル基盤強化
	高品質な 設備システムの提供	品質マニュアルにもとづく施工による 品質向上と技術トラブルの防止	施工現場へのBIM導入率：50%	
			施工サイクル実施率：100% 重大な品質・技術トラブル：0件	
	安心して働くことが できる施工現場の運営	リスクアセスメントを取り入れた作業手順の 遵守によるヒューマンエラーの防止	● 度数率：0.40以下 ● 強度率：0.03以下	戦略1 収益力の向上 1-1 生産プロセス改革
<div>重要課題4</div> <div>さわやかで 創造性に富んだ 環境づくり</div> <div></div>	人的資本の強化	建設キャリアアップシステムの 普及促進による技術者の公正な評価	安全衛生協議会会員の建設キャリア アップシステム <ul style="list-style-type: none">● 登録率：95%以上● 就業履歴登録数：前年比10%増	戦略3 経営基盤の強化 3-2 人的資本の強化
		調達ガイドラインの理解促進と 取り組み状況の確認	調達ガイドラインの取り組み状況に関する アンケートや対話を実施する企業数	
<div>重要課題を 支える経営基盤</div> <div></div>	人権の尊重	人を取り巻く環境整備活動 「We Up!」による人的基盤の強化	月平均時間外労働時間：30時間以下 男性育休取得率：100% <ul style="list-style-type: none">● 健康経営優良法人：継続的に認定を取得● 健康推進施策の目標<ul style="list-style-type: none">・ アブセンティーズム：前年度より改善・ プレゼンティーズム：前年度より改善・ ワークエンゲージメント：前年度より改善 教育訓練時間：2024年度比増	—
		企業の魅力向上	重要課題1～4の取り組みを推進し、 企業力の向上を図る	
	コンプライアンスの 徹底	人権デュー・ディリジェンスを推進し、 人権リスクへの対応と合わせ、従業員・ サプライチェーンへの人権啓発を実施	● 従業員に対する人権研修を年2回実施 ● 人権に関するアンケートや対話を 実施する企業数	—